

区分・種別	県指定史跡		
名称	ののせのこふん 野々瀬の古墳（七間塚古墳）		
所在地	今治市朝倉南		
所有者	今治市	管理団体	
指定年月日	昭和25年10月24日		
解説	<p>野々瀬の古墳は、笠松山（標高328m）の麓にある野々瀬古墳群のうち、大型の横穴式石室をもつ古墳であり、通称七間塚古墳と呼ばれる。この地域には、100基あまりの古墳があったといわれているが、戦後の開墾の際に壊されたりしたため、現存するものは20基ほどである。</p> <p>野々瀬の古墳も、指定されたときには墳丘が削られていて、現在では直径18mあまり、高さ約5mとなり、原形を知ることはできない。しかし、主体部はほぼ完全な形で残っており、石室の全長は10m、玄室の長さ5.2m、幅1.7～2.1m、高さ2.0m、羨道幅1.4mである。両袖式で、巨大な花崗岩を巧みに組み合わせた構造となっている。出土物についてははっきりしないが、石室の構造から7世紀初頭前後のものであろう。</p>		

